

かぜ

全作品と講評

www.columnland.net





パン。

乾いた音がグラウンドに響く。

スタートダッシュして、それからたった十秒ちよつと。
たったそれだけ、私はかぜになる。



金

部

あ

う

あ

あ

う

あ

に

う

あ

あ

し

木枯らし烈風隊

「はっけよい……………」

「のこった！」

「さあ始まりました、今年の大一番！ 男女の差を超えたこの相撲の勝敗で日本の夏が決まる！ 今年はどっちが勝つのでしょうか!?」

「今年も赤やがったな、俺様に勝てるかとも思ったのか!!」

「なにいつてんのよ、あたしのほうが先にここにいたんじゃない！ あんたこそ、あたしに勝てると思ってんの？ 笑っちゃうんですけど」

「お前それ本気で言ってるのか？ 俺様に勝てるなんて。ブブツ、笑いが止まらないぜ！」

「去年は負けただけ、今年は押し出しで勝ってやるんだからねっ。」

「お前がいると心も寒くなるんだよっ！ 俺様がさっさと押し出してやる。」

「キャッ、ど、どこ触ってるのよ！ このスケベ野郎！」

「うるせー、相撲なんだからそれぐらいいやうがないだろ！」

——戦いは拮抗し、一ヶ月半がたった。そして……………。

「フツフツ……。前線が上がってきたぞ？ お前もここまでか?」

「うぐぐ。……………フツ、残念だったわね。あんたこそここまでよ。くら

え！ 必殺、ノースレジエンドストーム！！！！！」

「ぐっ!!! うわあああああああああああああああああああ」

「押し出し！ オホーツク海高気圧」

「決まったあああ！ 太平洋高気圧押し出された！ 今年は冷夏か？」

——こうして、夏の高気圧が敗れ、冷たい風の吹き荒れる夏がやってきた。

『大相撲梅雨場所くそして冷夏へ』



ぼくはうまれた。ここがどこかはわからないけど、いきたいばしょはなぜかあった。ぼくはきたのほうへとすすんだ。

さいしょに来たところは空の色が白かった。もこもこした白いかたまりといっしょに、ぼくはあちこちに行った。一人じゃないと、ずいぶんとあたたかいものだと思った。この白いかたまりは、自分たちのことを「ユキ」だと言っていた。ユキはめったにしゃべらなかった。ユキとは山の上でおわかれした。

山をこえると、ぼくはどんどん乾いて軽くなっていった。さっぱりした気分で、ぼくはめいっばいスピードを出して山を下った。今までにないスピード感に、ぼくは夢中になった。なんとなく西に行きたくなった。なぜか前にも行ったことがある気がした。

西には素敵な街並みがたくさん広がっていた。花が沢山咲いているところがあって、そこでは花びらを散らさないようにそっと飛んだ。近くにいた小さい子が、僕が近づくと笑顔になった。見えてもないはずなのに。しばらく花の周りをふわふわ飛んでいたけれど、やがてだれもいなくなって、花も眠ってしまったから、訪れる夜から逃げるように僕は飛んだ。

気づくとそこは海の上だった。目の前にはもくもくと黒い雲、気づいた時にはそこに突っ込んでいた。途端、目が回った。僕は飛ばされていた。長い時間ぐるぐると。なんとかしてここから脱出しようとしていると、すすり泣くような声が聞こえた。大粒の涙が見えた。瞬間、僕はここから放り出された。力が入らない。僕はあてもなく落ちていった。

おちたさきはすなはまたった。ゆうやけがあかくあおうみをてらしていた。ぼくはねむってしまふんだと、なぜかわかっていた。うちよせるなみにあいさつして、ぼくはねむりにおちた。ながいねむりに。

ぼくはうまれた。ここがどこかはわからないけど、いきたいばしょはなぜかあった。ぼくはきたのほうへすすんだ。



風が吹く。

帽子が舞い上がる。

帽子を拾ってもらおう。

手と手が触れ合う。

見つめ合う。

恋に落ちる。

デートをする。

ケンカもする。

でも仲直りする。

ついにプロポーズする。

結婚しよう。

はい。

家を建てる。

綺麗な浴室のある家である。

そういえば湯桶を買ってないから買ってこよう。

桶屋が儲かる。



春風に撫でられ
木々は芽を出し

夏風に押されて
木の葉を茂らせ

秋風に揺られて
赤色に姿を変え

冬風に吹かれて
雪の上へと散り

また季節は巡り
春風は吹き出す

『いのちかぜ』



かぜ

「かぜ」とはなんでしょう？

今日、先生が出した宿題である。

考え始めてから四時間がたったがいまだに答えは出ない。

私が四時間も考えて答えを出せないということは答えがないということに他ならないのだろう。

そう思い、次の日先生にそう答えた。

そう答えると先生は国語辞典に「かぜ」という単語がのついているといった。ダメもとで「かぜ」という単語を国語辞典で調べてみると、とても文字が小さかった。

あまりの小ささに目がかすむ。

かすむ目で頑張つて探してみるが「かぜ」という単語が見らなかった。三十分たった。

いまだに「かぜ」という単語は見つけられない。

先生も耐えられなくなったようので私から国語辞典を取り上げ、「かぜ」という単語を探し始めた。

しかし見つけられなかったようで先生も困惑の表情をうかべていた。

不意に一人の生徒が手を挙げた。

それから私がやりましたと言いながら私の国語辞書の百二十七頁を机の中からとりだした。

彼が言うには私の百二十七頁があまりにもおいしそうだったから抑えきれずに盗んでしまったらしい。

しかし裏面の百二十八頁があまりにもまずかったのでたべられなかったらしい。

こうして私の百二十七頁は帰ってきたのだった。



風邪を引いた気持ちを一言でお願いします。

小学生の一郎君

今日学校休めるぞ！

中学生の二郎君

英語の宿題やってなかったんだ、助かった。

真面目な高校生の三郎君

あーっ、授業の進度に遅れちゃう……

普通の高校生の四郎君

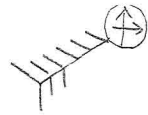
よしっ、面倒な英語や数学の授業を受けずに済んだぜ。

大学生の五郎君

授業はいいけど出席点が……まあ家でゴロゴロしてよう。

サラリーマンの六郎君

仕事の締め切りに間に合わないかも、どうしてこのタイミングで風邪引いたんだろう。



枯紅葉

風と歌いて

また一葉



風邪と愛情

風邪を引いて寝込んでいると思い出すのは

暖かいうどんとすりリンゴのジュースの味

お母さんが消化に良さそうなものを考えて

私に作ってくれたものだ

特別な具が入っているわけでもなく

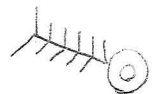
特別甘いわけでもない

でも特別においしいのはなんだろう？

弱っている時だけじゃなくて

いつだって思い出したいな

お母さん、ありがとう。



結局勝負に勝ったのは、

太陽の暖かさだったけど

私は自分の力を真っ向から正々堂々と使った
彼の不器用な戦い方も素敵だと思う

「北風と太陽」



マフラーに顔をうずめて

無人のホームで電車を待つ

ホットココアのぬくもりに

北風さえも心地いい

そんな、冬の朝

『はじまり』

コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	(かぜになる)	6 pt	4 位	0 sp
		陸上定番のシーン。「パァン」が、いい仕事してますね。 シンプルに緊張感を伝えて、今週の表紙です。 イチオシフレーズ：「パァン。」「たったそれだけ」		
02	木枯らし烈風隊	0 pt	11 位	2 sp
		ひゅうううう。音が聞こえてくるような動きのあるレイアウトが秀逸です。 みんなに逃げられたら、ぼくヤケになっちゃうぞ。こがらしくんのやけっぱち気分が、寒さとともに伝わってきます。 特別賞：配置がんばったで賞 from C班（配置が凝っていて、どうやってるのか気になる）めっちゃめっちゃで賞 from E班（レイアウトがおもしろかった。） イチオシフレーズ：「全部めっちゃめっちゃにしてやる」×2		
		6 pt	4 位	0 sp
		はっけよい高気圧相撲だ！ 季節感まるで無視のゴリ押しっぷりと、天気図視点の壮大さがたまりません。先週は公序良俗		

03	大相撲梅雨場所～そして冷夏へ～	違反に沈んださかなくん、今週はそこはしっかり押さえて、ノースレジェンドストームで気分良く暴れていただきました。グッジョブ！イチオシフリーズ大賞です。おめでとう!! イチオシフリーズ：「キャッ、ど、どこ触ってるのよ！このスケベ野郎！」「ノースレジェンドストーム！！！！」×3
04	風	12 pt2 位1 sp 風の一生。北へ、西へ、そして海へ。このまま絵本に仕立てられそうな、変化のある、かつ完成度の高い仕上がりでした。 何より印象的だったのは、「ぼく」 (→「僕」→「ぼく」)の浮遊感です。こういうのって、つい全てを達観した神様のキャラクターにしまいがちなのですが、そうではなく、その時その時の感覚や本能に動かされつつ、あてどない未来へとけなげに進んでいく。人もまた、かくありたし。そんな思いに誘われました。 特別賞：ここはどこなんで賞 from F班（どこの国か分からん）
05	(風が吹く→桶屋が儲かる)	14 pt1 位0 sp 現代版風桶ストーリー。 あまり引っ張り回さず、さらっとすなおに着地して、しあわせに浸れます。新婚でいきなり家が建てられるなんて、ブルジョワさんですね。 イチオシフリーズ：「桶屋が儲かる」

		4 pt	6 位	0 sp
06	いのちかぜ	その木は「楓」でしょうか。 木々の芽吹きとともに、うつろう季節、めぐる季節を、さやさやと歌いおさめた、おなじみ（たぶん）作者さんのおなじみ叙情詩です。		
		1 pt	9 位	1 sp
07	かぜ	とっても分かりやすい！よくある日常のひとこまを、あるある感満載で、あざやかに再現していただきました。 食欲の秋、あなたの辞書も鹿に食われないようご用心。 ときにコラムは匿名で勝負する場です。作者特定イクナイ!!! 特別賞：またお前か賞 from I班（またお前か）		
		3 pt	7 位	2 sp
08	風を引いた気持ちを一言でお願いします。	ラッキーなのか、アンラッキーなのか、立場によって変わるとらえかたのおもしろさ。ひとこまずつの六変化でコンパクトにまとめたワザが光ります。 特別賞：浪人生が欲しいで賞 from B班（浪人生のn郎君はどうしたんでしょう） 特別賞：お大事にしよう from D班（お大事にね☆）		
		0 pt	11 位	1 sp
		なつかしの俳句で。 「歌いて」という動詞が、とても良く効いています。それは楽しげな歌なのか、悲しげな旋律		

09	枯紅葉風と歌いてまた一葉	なのか、どちらにも想像できるところが奥深い。 俳句後遺症、いっそ行くところまで?? 特別賞：松尾芭賞 from J班（俳句に対する強いこだわりを感じた）		
10	風邪と愛情	2 pt	8 位	2 sp
		すりりんご、いいなあ。食欲を刺激するコラムで、ありがたい気持ちがずっと届きます。 このままCMで行けそうな、あたたかなホットステーションでした。 特別賞：フォントがなかったんで賞 from A班（「寝」「込」だけフォントが違ったから）感謝しま賞 from G班（感謝の気持ちを忘れずに）		
11	北風と太陽	1 pt	9 位	1 sp
		くるりと逆転。 かの「いいおはなし」童話の急所を衝いて痛快です。いいなあ。幼稚園児がもしこんな発想したら、せんせーは泣いて喜ぶべきでありましょう。 特別賞：正々堂々焼き尽くしま賞 from H班（太陽も熱をつかって焼き尽くせばいいのに）		
12	はじまり	11 pt	3 位	0 sp
		凜とした寒さの感覚が、具体的な映像とともに伝わってきます。 今、ここから始まる。冬よ、さあ来い！ ポジ		

ティブに今週の読み納めでした。

おめでとうブロンズ・メダル！

イチオシフレーズ：「無人のホーム」